

1 単元名 球技 ソフトボール

2 単元の目標

- (1) 次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開することができるようにする。 (知識及び技能)
 ウ ベースボール型では、基本的なバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と定位置での守備などによって攻防をすることができるようにする。
- (2) 攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 (思考力、判断力、表現力等)
- (3) 球技に積極的に取り組むとともに、仲間の学習を援助しようとすることや、健康・安全に気を配ることができるようにする。 (学びに向かう力、人間性等)

3 単元について

(1) 教材観

本単元は、攻守を規則的に交代しながら一定の回数内で相手チームより多くの得点を競い合うベースボール型の球技である。身体接触も少ないため、男女共習での学習がしやすい単元であり、「捕る、投げる、打つ、走る」の四つの基本的な技能のどれか一つでも習得できればチームに貢献することができ、自己の能力や特性に合わせて活躍することができる。一方、専門性が高く、技能習得に難しさを感じる場合もあり、ボールやバットを操作する基本的な技能を確実に身に付けるとともに、各ポジションの役割や、ベースカバーなどの集団技能につながるボールをもたないときの動きや知識の習得が求められる単元である。

(2) 生徒の実態

※各学校の実態による

(3) 指導観

ベースボール型の球技は、他の球技に比べて親しみが少なく、苦手意識をもつ生徒が多いため、授業を通してできなかったことができるようになり達成感を感じられる授業を展開する。前半は、苦手意識をなくすため、ボール、グラブ、バット等に触れる機会を増やすとともに、グループでの練習ではジグソー法を取り入れて、生徒同士で助言したり、話し合ったりする機会を多く設定する。また、楽しみながら行える簡易的なゲームを行い、自分たちで作戦を考えたり、基礎的・基本的な技能の習得につなげたりする。後半は、習得した技能を十分に発揮できるようなルールや、場の設定を工夫したゲームに取り組み、毎時間の授業の振り返りを充実させ、次時の学習に生かすことができるようにする。単元を通して、一人一人が基本的な技能のレベルを上げ、ゲームに生かすことで、習得した技能を実践する力、対話を通して主体的に仲間と活動する力を育成し、これからもスポーツに携わることができるよう指導する。

4 単元の評価規準

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|--|--|--|
| ○知識 ①球技には、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、言ったり書き出したりしている。 ②球技の各型の各種目において用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。 | ○技能 ①地面と水平になるようにバットを振り抜くことができる。 ②ボールの正面に回り込んで、緩い打球を捕ることができる。 ③決められた守備位置に繰り返し立ち、準備姿勢をとることができる。 | ①提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。 ②提供された練習方法から、自己やチームの課題に応じた練習方法を選んでいる。 ③健康・安全に留意している。 |

5 指導と評価の計画 (10 時間扱い)

| 時 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 (本時) | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | |
|-----------------------|------------------------------------|--|--|--|--|---|----------------------------------|--|-----|---------------------------|-----------------------|
| 学 習 の 流 れ | 0 | ○健康観察 ○本時のねらいと内容の確認 ○準備運動 | | | | | | | | | |
| | 10 | ○スキルアップトレーニング ・キャッチボール (対面・スクエア) ・ベースランニング ・ネットバッティング | | | | | | | | ○チーム練習 ・課題練習 ・作戦タイム | |
| | 20 | ベースボール5 | ○スイング確認 ・グループワーク ・動画活用 (ICT) | ○捕球の確認 ・ゴロ捕球 ・フライ捕球 ・動画活用 (ICT) | ○【エキスパート活動】 ・打撃練習 (バット操作) ・守備練習1 (捕球) ・守備練習2 (流れに沿った守備) ・走塁の仕方 | ○Try ゲーム① ・ルール説明 ・スリーアウト交代 ・スポンジボール ・ティー or トス (仲間)による打撃 ・チーム内反省 | ○チーム練習 ・課題練習 ・作戦タイム | ○ソフトボール大会 ・リーグ戦 ・総当たり ・ルール確認 ・スリーアウト交代 ・トスによる打撃 | | | |
| | 30 | | ○打撃練習 ・ティーバッティング ・ネットバッティング ・トスバッティング | ○得点阻止ゲーム ・ルールの確認 ・アウトの数を競う | ○【ジグソー活動】 ・打撃練習 (バット操作) ・守備練習1 (捕球) ・守備練習2 (流れに沿った守備) ・走塁の仕方 | ○Try ゲーム② ・ルール設定確認 ・作戦シートの活用 | (役割) ・運営 ・記録 ・審判 ・応援 | | | | |
| | 40 | | ○得点ゲーム ・ルール説明 ・飛距離による得点 | まとめ | | | | | | | |
| 50 | ○整理運動 ○学習のまとめと本時の振り返り ○次時の確認 ○健康観察 | | | | | | | | | | |
| 評 価 の 機 会 | 知 | ①記述 | | | | | ②記述 | | | | 総 括 的 評 価 |
| | 技 | | ①観察 | ②観察 | | | | ③観察 | | | |
| | 思 | | | ①記述 | | | | | ②記述 | | |
| | 態 | | ①観察 | | | ②観察 | | | | ③観察 | |

6 本時の展開（5／10時間）

(1) 本時の目標

- 練習の補助をしたり仲間に助言したりして、仲間の学習を援助することができるようにする。
(学びに向かう力、人間性等)

(2) 準備・資料

学習カード、ホワイトボード、グラブ、バット、ボール、ベース、

(3) 展 開

| 時間 | 学習内容と学習活動 | 教師の指導・支援（◆評価規準と方法） |
|--|---|---|
| 導入 5分 | 1 整列、挨拶、健康観察 2 準備運動 3 本時の課題と内容の確認 | <ul style="list-style-type: none"> ・健康観察を行い、活動場所の安全を確保する。 ・準備運動の際は、身体の中の部分を使うのかを考えながら行うよう声掛けをする。 ・前時までの学習内容を確認するとともに、本時の課題と身に付けたい力について確認し、学習の見通しをもてるようにする。 |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> チームの力を高めるためには、どのように練習を進めればよいだろうか。 </div> | | |
| 展 開 40 分 | 4 エキスパート活動を行う。 エキスパートグループにおいて、練習方法や技術のポイントを学習する。 ① 打撃練習（バット操作） ② 守備練習1（捕球） ③ 守備練習2（流れに沿った守備） ④ 走塁の仕方 5 ジグソー活動を行う。 ホームグループに戻り、エキスパートグループで学習した練習方法や、ポイントについて共有する。 ① 打撃練習（バット操作） ② 守備練習1（捕球） ③ 守備練習2（流れに沿った守備） ④ 走塁の仕方 ・ホームグループで内容を共有した後、練習を行う。 （課題に沿った練習の実践） | <ul style="list-style-type: none"> ・練習方法や、技術のポイントの伝え方を意識しながら活動できるよう支援する。 ・ホームグループに戻り情報共有しながら練習を行う際には、チームごとにアレンジを加えて練習してもよいことを助言する。 ・前時までに学習した、スイング、打撃、捕球が練習で生かされているグループを称賛する。 ・ダートサークルには打者以外入らないことや、スイングした後、バットはコーンに入れることなど、安全に活動できるように声掛けする。 ・練習方法や、技術のポイントを分かりやすく伝えるように助言する。 ・各ホームグループを巡回しながら、できるようになった技術をほめ、自信をもたせる言葉をかけながら、ミスを恐れない雰囲気づくりを促す。 ※活動が上手く進んでいない生徒をサポートするために、各リーダーに助言や補助の仕方をアドバイスする。 ・課題を明確に掲示し、それに沿った練習が行えるように助言する。 ・学習した練習方法から、適切な方法を選択することで課題解決を図ることができるよう助言する。 |
| ま と め 5 分 | 6 整理運動 7 本時のまとめ ・振り返りを行う。 ・次時の学習内容の確認 ・健康観察 8 整列、挨拶 | <ul style="list-style-type: none"> ・肩や足などをほぐす運動を取り入れられるよう、助言する。 ・学習カードには、仲間にどのような援助・助言をしたか具体的に記入するよう助言する。 ・次時への見通しをもたせる。 ・けがや体調不良者がいないか確認する。 |

◆ 練習の補助をしたり仲間に助言したりして、仲間の学習を援助している。
(主体的に学習に取り組む態度)
【観察】

7 成果と課題

(1) 成果

[知識・技能]

- ・ 1、2時間目の部分で「ベースボール5」を行ったことで、ベースボール型の競技に慣れ、スムーズにそれ以降の授業につなげることができた。
- ・ 動画撮影を取り入れ、チーム内でフィードバックしたり、お手本動画と自分の動きを比較したりして練習することができた。
- ・ スキルアップトレーニングを2時間目に行うことで、自己の技量が分かり、課題発見にもつながった。
- ・ バッティングティーを用いたことで、打つ感覚を身に付けられる生徒が多くいた。
- ・ 单元の中で攻撃に特化した時間、守備に特化した時間を計画し、その時間に沿ったミニゲームを行ったことで、生徒たちの技能の向上につながった。
- ・ 簡易ゲームの際はティーを使うなど工夫することで、多くの生徒が活躍することができた。
- ・ 評価では、ルーブリック評価にすることで生徒自身が目標をもって取り組むことができた。

[思考・判断・表現]

- ・ ゲームの前に、作戦シートを使用したことで打順、守備、作戦をチーム内で共有して行うことができていた。
- ・ 打撃中心の授業と守備中心の授業を分けて行ったことで、1つずつ動きを確認しながら進めることができた。また、思考を働かせながら練習することにもつながった。

[主体的に学習に取り組む態度]

- ・ 打撃練習では、グループで行い、打者、撮影者、打者のサポート、アドバイス、守備の役割を分担して行うことで、グループで協働しながら、一人一人の技術向上に努めることができた。
- ・ ジグソー法を取り入れた練習では、エキスパート活動において、各チームの生徒が分散して練習を行ったため、いつもと違った声かけやアドバイスが飛び交い、主体的で活発な授業展開ができた。また、ジグソー活動では、情報共有しながら課題練習を行った際には、チームごとにアレンジを加えて練習している様子が多く見られた。
- ・ 授業を重ねるうちに流れやルールをつかむことができ、単元が進むにつれて生徒主体で学習に取り組む様子が多く見られた。



(チームで作戦を考えている様子)



(作戦シートに守備のポジションや打順を記入する様子)



(バッティングティーを用いて、
バッティングの動画を撮影している様子)



(コーンを目印として置き、
飛距離による得点ゲームを行っている様子)

(2) 課題と反省

- 単元の始めは用語の理解が不十分だったため知識面の指導を多く取り入れるべきだと感じた。
- ジグソー法は、生徒が活動方法について正しく理解した上で行う必要がある。また、運動が苦手な生徒や控えめな生徒には、自チームで情報共有することが難しい。
- 授業中、生徒にボールが当たる危険性があるため、十分に生徒間の距離を空ける必要がある。
- 話し合い活動では、課題を具体的にピックアップすることに時間がかかるチームもあり、助言をしてもすぐに理解できたチームとできなかったチームの二極化が見られた。
-
- 動画撮影の際にICTの使用に夢中になり、活動が減ってしまう場面があったため、使用の細かいルールを助言することが望ましい。
- 生徒同士で守備について考えるときに意見がまとまらず、話し合い活動がうまく進まないグループがあった。打撃や守備がメインとなる時間をもう1時間増やすことで話し合い活動が充実すると考えた。
- 屋外のため、動きを動画で見ることが難しい。
- 習得すべき技能が多く、実践的な活動を行うためには、十分な練習時間を確保する必要がある。